

第3回10月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	小問数	小計	大問ごと
1	A 要約	12	1	12	22
	B(ア) 記号	2	4	8	
	B(イ) 単語記入	2	1	2	
2	A 英作	12	1	12	22
	B 英作	10	1	10	
3	A 記号	2	5	10	30
	B 記号	2	5	10	
	C 記号	2	5	10	
4	A 記号	2	5	10	22
	B(ア) 和訳	4	1	4	
	B(イ) 内容説明	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	4	1	4	
5	(A) 記号 (完答)	3	1	3	24
	(B) 説明	4	1	4	
	(C) 記号	2	1	2	
	(D) 記号	2	1	2	
	(E) 記号 (完答)	3	1	3	
	(F) 和訳	4	1	4	
	(G) 記号	2	1	2	
	(H) 和訳	4	1	4	
合計					120

1B(イ)は human(s) 以外不可。綴りの誤りは1字でも不可。

【1】－A (12点満点)

【例1】

理科の実験だけでなく、日常生活ですることはすべて実験である。条件を考え、集めた証拠から論理的に考えてよりよい結果を出す実験としてとらえれば、政治や育児や人間関係等あらゆる面でより効果的に考えられる。(99字)

【例2】

我々は学校で科学の実験を学ぶが、実験とは誰もが日頃していることであり、証拠や条件に基づいて論理的に考えれば、政治、子育て、人間関係など、日常生活のあらゆる側面でより効果的に思考できるだろう。(95字)

必須項目 (12点)	<p>①「我々は学校で実験を学ぶが、実験とは退屈で、科学者が行うものであり、日常生活とは無関係だと思っている」(2点)</p> <p>We learn about experimentation in school. ... So, in effect, we learn that experimentation is boring, is something done by scientists, and has nothing to do with our daily lives.</p> <p>▶ 「実験」(experimentation)に相当するものがないものは2点減点。</p> <p>②「実験とは誰もがいつも行っていることだが、我々は自分の行動を実験とは見なさず、証拠をもとに論理的に推論し条件を検討して、もっとよい結果を得る方法を考えるということをしな</p> <p>Experimentation is something done by everyone all the time. ... But because people don't really see these things as experiments or as ways of collecting evidence in support or denial of hypotheses, they don't learn to think about experimentation as something they do constantly and thus need to learn to do better.</p> <p>But because we don't recognize this, we fail to understand that we need to reason logically from evidence we gather, carefully consider the conditions under which our experiment has been conducted, and decide when and how we might run the experiment again with better results.</p> <p>▶ 「(実験は誰もが) いつも行っている (ことである)」(done by everyone all the time)に相当するものがないものは2点減点。 ○「いつも」は「日常/日頃/毎日/始終」でもよい。 ○「誰もが」はなくてもよい。</p> <p>▶ 「証拠」(evidence)に相当するものがないものは2点減点。 ×「条件/結果」は「証拠」と認めない。</p> <p>▶ 「論理的に推論する」(reason logically)に相当するものがないものは2点減点。 ×「考える」だけでは「論理的に推論する」と認めない。</p> <p>③「日常の経験の中の実験という基本的な推論の考え方を身につければ、人は政治や子育て、人間関係、仕事など日常生活のあらゆる側面についてずっと効果的に考えられるだろう」(4点)</p> <p>If they learned basic reasoning concepts, such as experimentation in the context of everyday experience, then people would be much more effective at thinking about politics, child raising, personal relationships, business, and every other aspect of their daily lives.</p> <p>▶ 「効果的に考えられる」(effective at thinking)に相当するものがないものは2点減点。 ×「効率的」は「効果的」と認めない。</p> <p>▶ 「日常生活」(daily lives)に相当するものがないものは2点減点。 ×「日常/日頃/毎日」だけでは「日常生活」と認めない。</p>
---------------	---

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
 ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
 ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【例 1】

Two men are quarreling about what number is between them. The man on the left side insists he sees six, while the man on the other side claims it is nine. From your perspective, you know both of them are at once right and wrong. In other words, what you see depends upon where you stand. This picture shows the importance of seeing things from various angles. (67 語)

(2人の男が、彼らの間にある数字が何であるかについて口論している。左側の男は6に見えると主張しているが、他方反対側の男はそれが9だと主張している。こちらから見れば、彼らはどちらも正しいのと同時に間違っているということがわかる。言い換えれば、人に見えるものはその人の立場に左右される。この絵は様々な角度から物事を見ることの重要性を示しているのだ)

【例 2】

Two men are arguing about the number on the floor. One says it is six and the other says nine. They won't stop arguing. The point is not, however, which man is right or wrong. It is a matter of their perspectives. What is right for one is not always right for another. Therefore, it is better to put yourself in others' shoes before accusing them of being wrong. (69 語)

(2人の男が床の上の数字について議論している。1人はそれが6であると言い、もう1人は9だと言う。彼らは議論をやめようとしなない。しかしながら、大事なのはどちらの人が正しいか間違っているかではない。それは2人の見方の問題である。1人の人にとって正しいことが必ずしも他の人にとって正しいわけではない。だから、他人を間違っていると非難する前にその人の立場になってみる方がよい)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(50語～70語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で以下のポイントを満たさないものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 「(数字について)片方が6だと言い、もう一方が9だと言う」(6点)

- * 「数字が6か9か言い争っている」にまったく関係がないものは6点減点。
- * 「数字」(number, letter など)はなくてもよい(6, 9があればよい)。
- * 6だけ、あるいは9だけのものは**3点減点**。

ポイント2 「(同じものでも)見る方向によって異なるものに見える場合がある」(6点)

The same thing sometimes looks different when you see it from a different point of view.

(同じものでも違った視点から見ると違うものに見えることもある)

What you see depends upon where you stand.

(人に見えるものはその人の立場に左右される)

- * 「(同じものでも)見る方向によって異なるものに見える場合がある」でないものは**6点減点**。
- * 「ある人にとって正しいことが必ずしも他の人にとって正しいわけではない」、「立場に左右される」など、同等のことを述べていれればよい。
- * 説明が明らかに不十分なものは**3点減点**。

【2】－B (10点満点)

【例1】

I looked for my daughter everywhere in the amusement park for twenty minutes, which seemed like two hours. I was greatly relieved to find her safe, but she didn't care at all and soon dived into her own world again. Somehow I felt how tough she was.

(私は20分の間、遊園地のあらゆる場所で娘を捜したが、その20分は2時間のように思えた。私は彼女が無事であることを知って大いに安堵したが、彼女はまったく気にもかけず、再び自分の世界に没入した。どういうわけか私は彼女が何と逞しいのだろうと感じた)

【例2】

I ran around the amusement park looking for my child. It was only about twenty minutes, but it felt like two hours. I was just relieved to see her safe, but when she glanced at me, she responded in an unexpected way: she buried herself again in what she was doing. I felt somehow that she was a strong girl.

(私は子供を捜して遊園地を走り回った。それは20分ぐらいでしかなかったが、2時間のように感じられた。私は彼女が無事なのを見てただただ安心したが、彼女は私をちらりと見て思いがけないやり方で反応した。彼女は自分がしていることに再び没頭したのである。私はどういうわけか彼女が強い少女だと感じた)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の区分を目安に得点を配分する。

- ①「遊園地の中を駆けずり回った20分ほどの」 (2点)
- ②「時間が2時間にも感じられた」 (2点)
- ③「無事な姿に(ただただ)安堵する親を尻目に」 (2点)
- ④「自分の世界に再び没頭する我が子を見て」 (2点)
- ⑤「不思議と逞しさを感じた」 (2点)

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>otherwise の内容がわかるように訳せ。

the care that my father took of me had been deepened by a double sense of responsibility, so that he protected me more completely than he might have otherwise.

<例 1>

父は二重の責任感により私をいっそう大事にしてくれたから、おそらく母が生きていた場合よりもなお完全に私を守ってくれた。

<例 2>

二重の責任感から父は私を一層大切に世話してくれたが、その結果、母親の責任まで背負わなかった場合に比べて、より完全に私を守ってくれた。

区分	配点	具体事例
the care that my father took of me 私の父が私にした世話は	1点	×that が took の目的語となる目的格関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ○me の訳があれば my の訳はなくてもよい。
had been deepened by a double sense of responsibility 二重の責任感によって深められていた	1点	×double の訳抜けは不可。 ×sense の訳抜けは不可。
so that he protected me more completely than he might have [protected me otherwise] その結果、彼は[母が生きていた場合に私を守ったであろう]より完璧に私を守った	1点	×so that を目的ととっているものは不可。 ×he, me の訳抜けは不可。 ×protected の訳は過去時制以外不可。 ○completely の訳抜けは不可。 ×比較構文だとわかっていないものは不可。
otherwise 母が死んでいなければ（母が生きていた場合に）	1点	×otherwise を「私の母が死んでいなければ（生きていれば）」ととっていないものは不可。 ×otherwise に「そうでなければ」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題>

it の内容を 40 字以内でわかりやすく説明せよ。

sometimes, looking at her too compassionate and understanding face over the dining table, I felt she must be thinking of my mother and I hated her for it

<例 1 >

家政婦の同情するような表情から、私の母のことを考えているに違いないと思ったこと。(40 字)

<例 2 >

母親がいなくてかわいそうに、という顔をミス・クレイが私に見せること。(35 字)

- ① 41 字以上は 0 点。文末の句点は不問。
- ② 次の (1) (2) が必須項目。

(1) her too compassionate and understanding face に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)

- ・ her は「彼女／家政婦／ミス・クレイ」などでよいが、her に相当するものがないものは不可。
- ・ face は「顔」でよい。
- ・ too compassionate and understanding は「同情するような／分かっているよという」など可。

(2) she must be thinking of my mother に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)

- ・ my mother だということが分かれば、my の訳はなくてもよい。「死んだ母親」も可。
- ・ 「彼女が母親のことを考えている」ということに触れていればよい。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

I longed for those other places he disappeared to, those strange places I had never been.

<例 1>

私は父が消えていく別の場所、行ったことも見たこともない場所にあこがれを感じていた。

<例 2>

私が行きたかったのは、それ以外の父が姿を消した場所、それまで行ったことがない馴染みのない場所だった。

区分	配点	具体事例
I longed for ~ 私は～にあこがれた	1点	×I の訳抜けは不可。 ○long for ~は「～を望む／～を願う／～を求める／～にあこがれる／～に行きたい」など可。 ×過去のことだとわかっていないものは不可。
those other places 他の場所	1点	○those の訳は「あの／あれらの／その／それらの」など可 (those の訳はなくてもよい)。 ×those に「この／これらの」は不可。 ×other の訳抜けは不可。
[that] he disappeared to 彼が消えて行く	1点	×目的格関係代名詞の省略がわかっていないものは不可。 ×関係詞節が to までだとわかっていないものはこの項目で減点。 ×to が関係代名詞を目的語とする前置詞だとわかっていないものは不可。 ×he の訳抜けは不可。 ○disappear は「消える／姿を消す／いなくなる」など可。
those strange places I had never been 私が行ったことのない不思議な場所	1点	×those strange places が those other places と同格だとわかっていないものは不可。 ○those の訳はなくてもよい。 ○strange の×訳抜けは不可。 ×places と I の間に目的格関係代名詞の省略があることがわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部(B)の意味を、ever に続く内容を補って、30 字程度の日本語で述べよ。

Did they ever?

<解答例>

家出してサーカスに入る，ということが以前にはあったのだろうか。(31 字)

<別解例>

彼らは現実から逃避して曲芸団に加わったことがあるのか。(27 字)

- ① 19 字以下または 41 字以上は 0 点。文末の句点は不問。
- ② 次の (1) (2) が必須項目。

(1) run away[または escaping life's monotony]に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)

・「家を飛び出す/家出する」「(現実から) 逃げ出す/逃避する」は run away と認める。

(2) join the circus に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

・「劇団」「どさ回り」は「サーカス」と認めない。

【5】－(F) (4点満点)

<問題部分>

下線部(F)を和訳せよ。

You've got people begging you to cut their hair.

<例 1>

どうしても君に髪をカットしてほしいという人たちがいるじゃないか。

<例 2>

君に髪を切ってもらいたいと願う人がいる。

区分	配点	具体事例
You've got people ~ing あなたには[懇願する]人がいる	2点	○You've got が You have と同じだとわかっているものは「あなたは～を持っている/あなたは～を手に入れている」など意識を認める。 ○have O C (people が begging ~の状態にある) ととっていても begging 以下が people を後ろから修飾しているととっていてもどちらでもよい。 ×get を「～させる/～になる」ととっているものは不可。
beg you to cut their hair あなたに髪を切ってくれと懇願する	2点	×beg O to do (O に～するよう懇願する) の構文がわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に 1 か所でも誤りがあればその区分は 0 点。
- ② 語句の誤訳，訳漏れ，英語のまま，不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(H) (4点満点)

<問題>

下線部(H)はどのようなことを比喩的に述べているか、30字程度の日本語で説明せよ。

Your imaginary tame lion may have you for dinner in reality.

<解答例>

想像上は素晴らしい仕事が現実には身を滅ぼすことになるということ。(32字)

<別解例>

夢の中のサーカス団員の生活は現実のサーカス団員の生活とは異なる。(32字)

① 19字以下または41字以上は0点。文末の句点は不問。

② 次の(1)(2)が必須項目。

(1) 「想像」に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)

・「想像」は「夢／空想」も可。「考え／頭の中」も認める。

(2) 「(想像と) 現実とは異なる」(これがないものは**2点減点**)

・「想像と現実 [実際] は異なる」というニュアンスがあればよい。